燕沢（つばめざわ）

小鶴（こづる）

松原街道に人の暮らしがゆきかった。

案内温泉

塩釜街道

蒙古の碑

燕沢寺

善応寺

大須賀森

小鶴小学校

振る舞った。

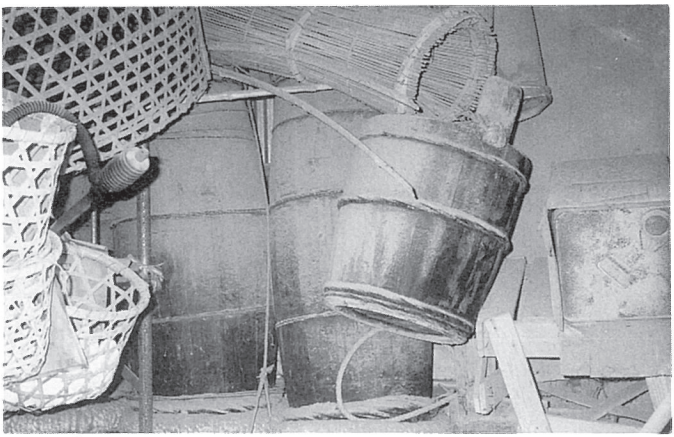
【出稼ぎ】

農閑期には酒屋に働きに行く人も居た。

【農耕の道具】

農耕方式はもっぱら鍬、すき、鎌・馬耕などで、耕運機、トラクター、コンバインなどはありません、運搬方法は、馬と荷車（ダイハツ）で後にリヤカーが加わりました。

鍬、鎌などの農具は、部落の鍛冶屋で作っており、これを購入して使用していました。



珍しく残っていた用具

【農作業の用具で珍しく残っておった用具】

○長い樽は……馬車で肥料を運搬した　4斗樽（よっ樽）

○その右脇の桶は　天秤棒で肩で担いで肥料を運ぶ　にない桶

○その上にある竹で編んだ筒は…川にしかけて「なまず」や鮒などをとる。「なまずどう」というもの

○左側の上の大きな籠は…桑の葉を入れるもの

○その下は…田植えをするとき、これに苗を入れて腰に下げる苗籠である。

その外、農作業で使用する道具類は荷馬車を始め数多くであったが、今は大きな農機具を何台も置かねばならぬので邪魔者はうせろで形なしである。

【肥料】

肥料は、牛（馬）小屋から出る敷藁を堆肥として使用したほか、人糞が主でした。そのため、馬車で市内各戸の家庭の便所から汲み取り、肥溜に集め発酵させて使いました。

収穫量を確保するために、金肥として窒素、燐酸加里、豆かす、魚かすを使いました。今のような除草剤や殺虫剤などの薬剤の使用はあまりありませんでした。

【作業衣】

農作業の衣類は、紺染めの木

切り炉
煮物をする

【1月14日（女の正月）】

■行事

・あかつき参り

・ちゃせご

新築した家、新しいお嫁さん、お婿さんの家に〝じゅうのう〟等におめでとうの文字を書き、お面がわりに、顔を隠し家々を訪ね歩く。それらの家では料理を用意して待っている。「アキの方から、ちゃせごに来ました」と言い、じゅうのうを差し出すと、用意した料理をのせてくれる。子供が訪ね歩き餅をもらう。隣近所の人たち5、6人ですもうの仮装をしてちゃせごに歩く

■食べ物

あずきがゆ

【1月15日】

■行事

・おかんのんさん

飾りもの…松、鶴、ゆずり葉

■備考

鰯、鯖、秋刀魚、鳥賊＝普

（次ページへつづく）

で入り、床に筵をしいて仮眠がとれるようになっていました。毎年10月から3月まで、毎夜午後9時から翌朝5時まで、集落各戸の順番でヒョウシ木を打って、火の用心と不審者の夜警の任務につきました。暖をとる木炭は集落の費用から毎夜配られました。

若者の青年団

県連合青年団の下部組織としてありました。運動会、神社の縁日の準備、共同作業での資金稼ぎ（山林の下刈り、足踏み機機での縄玉作りなど）をして、年末のえびす講で一升餅を食べるという、豪快な話もありました。

力だめしも盛んで60キロ土のうや、手頃の石も使われました。青年団の行事は主に夜でした。

情報と商標コマーシャル

家庭には商店名の入った団扇が夏に、商店名が染め抜かれた前掛けが暮れに配られましたが、前掛けは普段愛用されました。また大正美人のポスターなども商店で配ってました。

雑誌は農業組合関係の「家の光」程度で婦人倶楽部、少年倶楽部は特別の家庭だけでした。一般情報は口コミが主でした。

結婚

結婚は見合結婚であった。親の決めた相手に一回の見合で結婚が成立する。花嫁衣裳で静々と行列が進んだ。

花嫁の荷物は牛、馬に積む。婚家に到着すると花嫁は足袋を脱ぎ、勝手口に置かれた桶の水